

みんなで作るアートな茶まつり「アート・カフェ」

2011年10月15日・16日 入間市博物館・アリット

SMFの〈アート・カフェ〉は、当館の「秋のお茶まつり」との連携事業として、2011年10月15日・16日に開催されました。春季と秋季におこなってきたお茶の関連事業を合体させ、伝統と革新を踏まえて再出発したイベントの「秋のお茶まつり」も二回目を迎えます。来館者の方がたにそのリニューアルを鮮烈に印象付けたのは、他でもないSMFの理念と行動力であったと思います。

今年度は、会場の装飾、ワークショップ、オリジナルメニューなどの斬新かつユニークな内容となりました。月見の夜を彩るオリジナル灯籠の制作と展示、エントランスの天井に吊るした長大な和紙のウェーブ、人々の心を解放させてくれる墨書のドーム、蚊帳の中でコルク栓などを細工して蝉や秋虫を制作するワークショップ、また「俳句×音楽×ダンス」のコラボレーション、地元新久雫子(あらくぼやし)の演奏と創作ダンスのコラボレーション、これらのイベントは深い感動と余韻を残して来年へと継承させていく活力となりました。

工藤宏(SMF運営委員)



〈アート・カフェ〉は「お茶まつり」にちなんで、お子さんから年配の方までを「アートでおもてなし」して、「アートでいっぶく」していただくというものです。広びろとしたアリットの庭に入ってゆっくりできるような大型作品を設置して、夜間にはSMFオリジナル灯籠で幻想的な光のみちを創るというプランは、前日からの雨で規模を縮小しましたが、館内での展示やダンスとともにじゅうぶん楽しんでいただくことができました。

今回は、地元ゆかりのアーティストに、Reユース、Reサイクル素材利用を願ひし、準備期間が短かったにもかかわらず、趣旨に賛同してくださった出店久夫さん、田中芳さん、小川移山さん、柳井嗣雄さんの作品展示とワークショップが実現しました。また、昨年のSMF事業で設営された方丈庵を「再」活用して、さまざまなパフォーマンスが展開されました。



入間市在住の作曲家笠松泰洋さんには、俳句に合わせたダンス用の音楽を創っていただきました。笠松さんに限らず、地元で制作をしているのに発表は都内というアーティストはとて多いので、これからさまざまな機会にアーティストたちと地域のつながりを双方ハッピーな形で実現したいものです。また、今回は小・中学生や高校生への呼びかけがうまくいきませんでした。灯籠制作に携わった大学生たちが鉄工所の方たち、ボランティア会のメンバーや博物館の職員さんたちと数日共に作業をし、語りあってくれたことは大きな収穫でした。若い世代が自発的に参加したくなるような仕掛けを常に考えていかなければならないと思います。

山尾聖子(SMF運営委員)

〈アート・カフェ〉の初日は、あいにくのお天気でしたが、場所を博物館のピロティに移し、小川移山さんの墨書のインスタレーション、出店久夫さんの蚊帳の中でオリジナルの虫作りのワークショップを開催しました。思い思いに筆

でぐるぐると渦巻きを書く体験はとておもしろく、子ども大人もしだいに大胆な筆致になっていきます。また、コルク栓を使っの虫作りは、小さい頃に秘密基地に隠れているおもしろさを手作りした遠い記憶を思い出させました。まさに、アートでいっぶくの気分です。圧巻は二日目の、俳人高橋博夫さんの俳句をテーマに作曲家笠松泰洋さんがオリジナル曲を創作し、その曲にのせて藤井香さん&ダンスユニット〈軋々〉のみなさんによって踊られたオリジナルダンス。まさに異色のコラボ。「俳句×音楽×ダンス」で、こんなにエキサイティングな作品になるとは……。また、田中芳さんと美大生の方がたが絵柄をデザインして、それを切り抜き加工したステンレス製の灯籠が会場に映え、花を添えていました。館内から庭の植え込みへと続く灯籠、アートのみちも照らしてくれるといいなあ。

小原恵利子(SMF運営委員)

「俳句×音楽×ダンス」、この秀抜なコラボレーションは山尾聖子さんの発案によります。

まず、SMFのキーワードとして「風・つなぐ・光」をもらい、それらを折り込みつつ、楽曲・ダンスとともに披露される季節を意識して、ふたつの俳句を詠みました。

《秋風の息つなぎつつほつれつつ》
《鳥渡る光の川のはるかより》

ギリシア神話によれば、風は神の息。ポッティチェルリの絵画「ヴィーナスの誕生」には、西風の神ゼフェロスが吹く息で貝殻にのる裸身のヴィーナスをキュプロス島へ送り届けるようすが描かれています。また、渡り鳥は「無垢ないのちの／無数のきらめき」(茨木のり子「鶴」)をもって上空を流れる「光の川」のかなたからやってきます。新オリエント楽派の作曲家笠松泰洋さん、藤井香さんとダンスユニット〈軋々〉の方がたは、俳句のはらむ時空や情感をたくみにすくいとり、音楽と身体表現の世界へイメージを広げていただきました。

高橋博夫(SMF運営委員)

